令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野八幡小学校】

①

	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」「変化と関係」 ＜指導上の課題＞ 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させ、児童の自律的な学びを促していく必要がある。また、日常に生かす視点をもった指導をしていく必要がある。	⇒	書き込み式ドリルやドリルパークを活用して、反復・習熟の機会を保障し、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する【週に3度】 習得した学習内容が日常生活とどのように関連しているのか、どのような活用場面があるのかを、児童と共に考え、共有する【単元ごと】 1人1台端末を活用し、児童の振り返り等を基に「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」、学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した児童主体の授業を実践し、成果と課題を共有する。【学期に1回】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 ＜指導上の課題＞ 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させ、児童の自律的な学びを促していく必要がある。児童が学んだことを主体的に表現する機会を設定していく必要がある。	⇒	スクールダッシュボードを活用し、児童が自身の学びを振り返る時間を設定する【毎時間】 ルーブリック評価を取り入れ、児童が学習のめあてを自己決定して、主体的に学習に取り組むことができるようにする【毎時間】 ねらいを明確にした協働的な学びの場面を設定し、仲間と考えを交流する中で学びをさらに深めることができるようにする【単元ごと】 自分の考えや学んだ成果を児童が表現する機会を設定する【単元ごと】

②

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	
思考・判断・表現	

③

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価　Ａ 8割以上（達成）Ｂ 6割以上（おおむね達成）Ｃ 6割未満（あと一歩）

④

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤

⑤	評価（※）	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価　Ａ 8割以上（達成）Ｂ 6割以上（おおむね達成）Ｃ 6割未満（あと一歩）

⑥

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野八幡小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 学習した内容の意味についての理解に課題が見られる部分がある。 <指導上の課題> 児童の実態に応じての授業づくりや個別の指導に対する時間の確保ができない。	⇒	ドリルパーク、スタディサプリを活用し、反復・習熟の学習に取り組み、個に応じた課題の解決と、「知識・技能」の定着を図る。【月に1度の実施】 スクールダッシュボードを活用し、授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定する。児童の振り返りをもとに、授業者もさいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」、学びのポイント「じ・し・ゃ・ク」の実践に取り組むようにする【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 問題場面の把握や根拠を明確にした考えをもつことに対し、課題が見られる。 <指導上の課題> 学びの個性化、協働的な学びの時間の確保が難しい。	⇒	ICTなどの活用を通して、共同編集の活動を取り入れ、児童間での考え方の共有や説明場面などを設定し、さらに児童一人ひとりが、より多角的に思考し、学習を深めていけるよう、授業展開を行っていく。また、単元ごとに自分の考えを表現できる場を設定し、協働的な学びの時間を確保していく。【毎単元設定】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語と算数、いずれの教科も全体的に概ね良好である。国語において、語句（漢字）の定着においてやや課題が見られた。ICT機器を効果的に活用しながら、朝の学習の時間や授業の中で、自らの学びを振り返りながら、反復する時間を設ける必要があると考える。R6年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」における肯定的な回答の割合は95%であった。引き続き、さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」、学びのポイント「じ・し・ゃ・ク」の実践をとおして、子どもの主体性を引き出しながら、学習内容の定着が図れるように指導していく。
思考・判断・表現	国語と算数、いずれの教科も全体的に概ね良好である。R6年度全国学力・学習状況調査「ICT機器を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」や「ICT機器を活用して、友達と協力しながら学習を進めることができる」における肯定的な回答の割合はいずれも95%以上であった。引き続き、ICT機器を効果的に活用しながら、協働的な学びを展開することをとおして、子どもたちの思考力・表現力・判断力を高めていく。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の始めや朝の学習の時間にドリルパーク等を活用した漢字や計算の反復練習の結果がテストへの効果に表れた。引き続き、漢字学習において、デジタルとアナログを効果的に組み合わせ、学習の内容の定着を図っていきたい。	変更なし
思考・判断・表現	A	本校の学校課題研究「基本的な資質・能力を基に、自律的、探究的に学び続ける児童の育成」をとおして、1人1時間の公開授業を計画的に進めていく。ICT機器（Canva）を効果的に活用しながら、ルーブリック評価、指導の個別化、学習の個性化、協働的な学びについて引き続き研究、実践をしていく。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	4教科において、概ね市の平均を上回っているが、学年毎、教科ごとに伸び率に幅がある。特に算数は、どの領域においても正答率が高く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているものと思われる。その一方でどの学年も、漢字を書くことが、他の領域に比べ少し平均が下がる。漢字を学習するだけでなく、日常的に漢字を使うことも必要である。
思考・判断・表現	4教科において、概ね市の平均を上回っているが、学年毎、教科ごとに伸び率に幅がある。4学年のうち、市平均よりも下回る学年があった。特に国語における文章の読み取りや、言葉の表現についての理解が低かった。また、算数においては、全学年市平均を上回るが、「知識・理解」と「思考・判断・表現」を比較すると正答率の数値が下がることから、「どうしたらその答えが出るのか」という問題解決の過程について児童に考えさせることが必要である。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	A	反復・習熟の学習に取り組み、個に応じた課題の解決と、「知識・技能」の定着を図るため、ドリルパークなどの実施を行った。市の学力・学習状況調査において、本校の「知識・理解」の正答率が高く、市平均を9割の項目で上回ったのも、反復・習熟の学習を継続的に行っていた成果と考えられる。 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、児童の振り返りをもとに、授業者もさいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」、学びのポイント「じ・し・ゃ・ク」の実践に取り組むように心掛けた。児童に対する個別最適な学習のための指導が行われたことで、児童一人ひとりの理解力の向上につながったと考えられる。
思考・判断・表現	A	本校の学校課題研究「基本的な資質・能力を基に、自律的、探究的に学び続ける児童の育成」をとおして、1人1時間の公開授業を計画的に進めていく。ICT機器（Canva）を効果的に活用しながら、ルーブリック評価、指導の個別化、学習の個性化、協働的な学びについて引き続き研究、実践をしていった。Canvaを自分の考えの表現のためのツールとして活用したり、、ルーブリックによる評価を用いることで、児童が自らの学習目標や学習計画を理解、見直すことができ、学習に参加することができた。市学調では「思考・判断・表現」は市平均を9割の項目で上回っているが、今後も、児童一人ひとりの実態に合わせて、ICT機器を使用した授業の展開を、行っていく必要がある

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）